

水質汚濁防止法による窒素含有量に係る総量規制基準

水質汚濁防止法（昭和45年法律第138号。以下「法」という。）第4条の5第1項及び第2項の規定により、窒素含有量に係る総量規制基準を次のとおり定め、平成29年9月1日から施行し、水質汚濁防止法による窒素含有量に係る総量規制基準（平成24年神奈川県告示第99号）は、平成29年8月31日限り廃止する。ただし、同年9月1日以後に法第5条又は第7条の規定による届出がされる特定施設（指定地域特定施設を含む。）の設置又は構造等の変更により増加する特定排出水の量（同日以後に法第5条の規定による届出がされる特定施設（指定地域特定施設を含む。）の設置により新たに設置される指定地域内事業場に係る場合にあつては、特定排出水の量）を除く特定排出水の量に係る C_n 、 C_{ni} 及び C_{no} の値に係る業種その他の区分及びその区分ごとの値については、平成31年3月31日までの間は、なお従前のおりとする。

1 適用する水域

水質汚濁防止法施行令（昭和46年政令第188号）別表第2第1号ニに掲げる区域

2 適用する工場又は事業場

法第2条第6項に規定する特定事業場で、1日当たりの平均的な排出水の量が50立方メートル以上のもの（以下「指定地域内事業場」という。）

3 総量規制基準

総量規制基準は、次の表の中欄に掲げる指定地域内事業場の区分ごとに同表の右欄に掲げるとおりとする。

番号	指定地域内事業場の区分	総量規制基準
1	平成14年10月1日前に設置されている指定地域内事業場（同日前に法第5条又は第7条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされたものを含み、次項に掲げるものを除く。）	$L_n = C_n \cdot Q_n \times 10^{-3}$
2	平成14年10月1日以後法第5条又は第7条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされた指定地域内事業場（工場又は事業場で、同日以後法第5条又は第7条の規定による届出がされた特定施設の設置又は構造等の変更により新たに指定地域内事業場となったものを含む。）及び同日以後法第5条の規定による届出がされた特定施設の設置により新たに設置された指定地域内事業場（次項及び4の項に掲げるものを除く。）	$L_n = (C_{ni} \cdot Q_{ni} + C_{no} \cdot Q_{no}) \times 10^{-3}$
3	水質汚濁防止法施行令の一部を改正する政	$L_n = C_n \cdot Q_n \times 10$

	令（平成24年政令第147号。以下「平成24年改正政令」という。）の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場（次項に掲げるものを除く。）	10^{-3}
4	平成24年改正政令の施行により新たに指定地域内事業場となった工場又は事業場のうち、平成24年5月25日以後法第5条又は第7条の規定による届出がされた特定施設が設置され、又は特定施設の構造等の変更がされたもの及び同日以後法第5条の規定による届出がされた特定施設の設置により新たに設置された指定地域内事業場となった工場又は事業場	$L_n = (C_{ni} \cdot Q_{ni} + C_{no} \cdot Q_{no}) \times 10^{-3}$

備考 この表に掲げる式において、 L_n 、 C_n 、 C_{ni} 、 C_{no} 、 Q_n 、 Q_{ni} 及び Q_{no} は、それぞれ次の値を表すものとする。

L_n 排出が許容される汚濁負荷量（単位 1日につきキログラム）

C_n 別表窒素含有量の欄(1)に掲げる値（単位 1リットルにつきミリグラム）

C_{ni} 別表窒素含有量の欄(2)に掲げる値（単位 1リットルにつきミリグラム）

C_{no} C_n と同じ値（単位 1リットルにつきミリグラム）

Q_n 特定排出水の量（単位 1日につき立方メートル）

Q_{ni} 平成14年10月1日（4の項にあっては、平成24年5月25日）以後に特定施設の設置又は構造等の変更により増加する特定排出水の量（単位 1日につき立方メートル）

Q_{no} 特定排出水の量（ Q_{ni} を除く。）（単位 1日につき立方メートル）

別表

番号	業種その他の区分	窒素含有量 (単位1リットルにつき ミリグラム)		備 考
		(1)	(2)	
2	畜産農業	60	60	
3	天然ガス鉱業			
4	非金属鉱業	10	10	
5	部分肉・冷凍肉製造業又は肉加工品製造業	25	10	
6	乳製品製造業	15	10	
7	畜産食料品製造業(前2項に掲げるものを除く。)	30	10	
8	水産缶詰・瓶詰製造業	20	10	
9	寒天製造業			
10	魚肉ハム・ソーセージ製造業			
11	水産練製品製造業(前項に掲げるものを除く。)	25	10	
12	冷凍水産物製造業	30	10	
13	冷凍水産食品製造業			
14	水産食料品製造業(8の項から前項までに掲げるものを除き、魚介類塩干・塩蔵品製造業を含む。)	25	10	
15	野菜缶詰・果実缶詰・農産保存食料品製造業	20	10	
16	野菜漬物製造業	15	10	
17	味そ製造業	20	10	
18	しょう油・食用アミノ酸製造業	95	10	
19	うま味調味料製造業	20	10	
20	ソース製造業			
21	食酢製造業			
22	砂糖精製業			
23	ぶどう糖・水あめ・異性化糖製造業	15	10	
24	小麦粉製造業	20	10	
25	パン製造業	15	10	
26	生菓子製造業			
27	ビスケット類・干菓子製造業			
28	米菓製造業			
29	パン・菓子製造業(25の項から前項までに掲げるものを除く。)			
30	植物油脂製造業	20	10	
31	動物油脂製造業	15	10	
32	食用油脂加工業			
33	ふくらし粉・イースト・その他の酵母剤製造業	20	10	
34	穀類でんぷん製造業	15	10	
35	めん類製造業			
37	豆腐・油揚製造業	20	10	
38	あん類製造業	15	10	
39	冷凍調理食品製造業	20	10	
40	そう(惣)菜製造業のうち煮豆の製造に係るもの			
41	清涼飲料製造業			
42	果実酒製造業	15	10	
43	ビール製造業			
44	清酒製造業	10	10	
45	蒸留酒・混成酒製造業	15	10	
46	インスタントコーヒー製造業	20	10	

47	配合飼料製造業	15	10	
48	単体飼料製造業	20	10	
49	有機質肥料製造業			
50	たばこ製造業			
51	生糸製造業（副蚕糸精練業を含む。）			
55	繊維工業（51の項に掲げるもの及び衣服その他の繊維製品に係るものを除く。以下同じ。）で整毛工程に係るもの			
57	繊維工業で麻製織工程に係るもの	15	10	
58	繊維工業で毛織物機械染色整理工程（のり抜き、精練漂白、シルケット加工その他の染色整理工程に付帯して行われる加工処理工程（以下「染色整理工程付帯加工処理工程」という。）を含む。）に係るもの	10	10	
59	繊維工業で織物機械染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの（前項に掲げるものを除く。）	10	10	綿織物捺染工程にあっては、窒素含有量の欄(1)の値は、60とする。
60	繊維工業で織物手加工染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	20	10	
61	繊維工業で綿状繊維・糸染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	15	10	
62	繊維工業でニット・レース染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	10	10	
63	繊維工業で繊維雑品染色整理工程（染色整理工程付帯加工処理工程を含む。）に係るもの	20	10	
64	繊維工業で不織布製造工程に係るもの			
65	繊維工業でフェルト製造工程に係るもの	15	10	
66	繊維工業で上塗りした織物及び防水した織物製造工程に係るもの	20	10	
67	繊維工業で繊維製衛生材料製造工程に係るもの			
68	繊維工業（55の項から前項までに掲げるものを除く。）	15	10	
69	一般製材業又は木材チップ製造業	20	10	
71	合板製造業（集成材製造業を含む。）又はパーティクルボード製造業	10	10	
75	木材薬品処理業	20	10	
76	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で溶解パルプ製造工程に係るもの	10	10	
77	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でサルファイトパルプ製造工程に係るもの			
78	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でグランドパルプ製造工程、リフアイナーグランドパルプ製造工程又はサーモメカニカルパルプ製造工程に係るもの			

79	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で未さらしケミグランドパルプ製造工程又は未さらしセミケミカルパルプ製造工程に係るもの（次項に掲げるものを除く。）			
80	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でさらしケミグランドパルプ製造工程（前工程の未さらしケミグランドパルプ製造工程を含む。）又はさらしセミケミカルパルプ製造工程（前工程の未さらしセミケミカルパルプ製造工程を含む。）に係るもの			
81	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で未さらしクラフトパルプ製造工程に係るもの（次項に掲げるものを除く。）			
82	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でさらしクラフトパルプ製造工程（前工程の未さらしクラフトパルプ製造工程を含む。）に係るもの			
83	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で古紙を原料とするパルプ製造工程に係るもの（次項に掲げるものを除く。）			
84	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で古紙を原料とし脱インキ又は漂白を行うパルプ製造工程（前工程の離解工程を含む。）に係るもの			
85	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で木材又は古紙以外のものを原料とするパルプ製造工程に係るもの			
86	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業でグランドパルプ、リファイナーグランドパルプ又はサーモメカニカルパルプを主原料とする洋紙製造工程（前工程のグランドパルプ、リファイナーグランドパルプ又はサーモメカニカルパルプ製造工程を有するものに限る。）に係るもの			
87	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で洋紙製造工程に係るもの（前項に掲げるものを除く。）			
88	パルプ製造業、洋紙製造業又は板紙製造業で板紙製造工程に係るもの			
89	機械すき和紙製造業			
90	手すき和紙製造業			
91	塗工紙製造業			
92	段ボール製造業			
93	重包装紙袋製造業			
94	セロファン製造業	20	10	
95	乾式法による繊維板製造業			
96	繊維板製造業（前項に掲げるものを除く。）	15	10	
97	パルプ製造業、紙製造業又は紙加工品製造業（76の項から前項までに掲げるものを除く。）	10	10	
100	印刷業（新聞その他の出版物を印刷するものを含む。）	20	10	
101	製版業			

102	窒素質・りん酸質肥料製造業	15	10	(1) アンモニア製造工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、40、30とする。 (2) アンモニア誘導品製造工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、200、200とする。 (3) 尿素製造工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、700、700とする。
103	複合肥料製造業	15	10	
104	化学肥料製造業（前2項に掲げるものを除く。）	10	10	
105	ソーダ工業			
106	電炉工業	15	10	
107	無機顔料製造業	25	20	
108	無機化学工業製品製造業（前3項に掲げるものを除く。）	50	40	
109	石油化学系基礎製品製造業で脂肪族系中間物製造工程に係るもの	15	10	窒素又はその化合物を原料として使用するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、60、40とする。
110	石油化学系基礎製品製造業で環式中間物・合成染料・有機顔料製造工程に係るもの	15	10	
111	石油化学系基礎製品製造業でプラスチック製造工程に係るもの			
112	石油化学系基礎製品製造業で合成ゴム製造工程に係るもの	15	10	窒素又はその化合物を原料又は乳化助剤として使用するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、110、40とする。
113	石油化学系基礎製品製造業で有機化学工業製品製造工程（脂肪族系中間物製造工程、環式中間物・合成染料・有機顔料製造工程、プラスチック製造工程及び合成ゴム製造工程を除く。）に係るもの	15	10	
114	石油化学系基礎製品製造業（109の項から前項までに掲げるものを除く。）			
115	脂肪族系中間物製造業	35	10	(1) 窒素又はその化合物を原料として使用するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、120、40とする。 (2) 青酸誘導品含有排水を排出する工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、800、500とする。
116	メタン誘導品製造業	15	10	
117	発酵工業			
118	コールタール製品製造業	330	170	

119	環式中間物・合成染料・有機顔料製造業	15	10	窒素又はその化合物を原料として使用するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、100、50とする。
120	プラスチック製造業	10	10	窒素又はその化合物を原料又は乳化助剤として使用するものにあつては、窒素含有量の欄(1)の値は、20とする。
121	合成ゴム製造業	15	10	窒素又はその化合物を原料又は乳化助剤として使用するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、100、40とする。
122	有機化学工業製品製造業（109の項から前項までに掲げるものを除く。）	70	10	(1) 窒素又はその化合物を原料として使用するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、85、15とする。 (2) イソシアヌル酸及びその誘導品製造工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、20、15とする。 (3) メラミン製造工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、850、850とする。
123	レーヨン・アセテート製造業のうちレーヨンの製造に係るもの	10	10	
124	レーヨン・アセテート製造業のうちアセテートの製造に係るもの	15	10	
125	合成繊維製造業	10	10	窒素又はその化合物を原料として使用するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、50、35とする。
126	脂肪酸・硬化油・グリセリン製造業	10	10	
127	石けん・合成洗剤製造業	15	10	
128	界面活性剤製造業（前項に掲げるものを除く。）			
129	塗料製造業			
130	印刷インキ製造業			
131	医薬品原薬・製剤製造業	15	10	医薬品原薬製造工程（窒素又はその化合物を原料として使用するものに限る。）にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、120、20とする。
132	医薬品製剤製造業	10	10	
133	生物学的製剤製造業			
134	生薬・漢方製剤製造業	15	10	
135	動物用医薬品製造業			
136	火薬類製造業			
137	農薬製造業			
138	合成香料製造業			
139	香料製造業（前項に掲げるものを除く。）			

140	化粧品・歯磨・その他の化粧用調整品製造業			
142	ゼラチン・接着剤製造業（にかわ製造業を含む。）			
143	写真感光材料製造業			
144	天然樹脂製品・木材化学製品製造業	10	10	
145	イオン交換樹脂製造業	15	10	
146	化学工業（102の項から前項までに掲げるものを除く。）			
147	石油精製業	20	10	
148	潤滑油製造業（前項に掲げるものを除く。）			
149	コークス製造業	500	320	
150	石油コークス製造業	20	10	
151	自動車タイヤ・チューブ製造業			
152	ゴム製品製造業でラテックス成型型洗淨工程に係るもの	10	10	
153	ゴム製品製造業（前2項に掲げるものを除く。）	15	10	
154	なめしかわ製造業	20	10	
155	毛皮製造業	10	10	
156	板ガラス製造業			
157	板ガラス加工業			
158	ガラス製加工素材製造業			
159	ガラス容器製造業			
160	理化学用・医療用ガラス器具製造業			
161	卓上用・ちゅう房用ガラス器具製造業			
162	ガラス繊維（長繊維に限る。）・同製品製造業	15	10	
163	ガラス繊維・同製品製造業（前項に掲げるものを除く。）	20	10	
164	ガラス・同製品製造業（156の項から前項までに掲げるものを除く。）	10	10	
165	生コンクリート製造業			
166	コンクリート製品製造業			
167	セメント製品製造業（前2項に掲げるものを除く。）			
168	黒鉛電極製造業			
169	砕石製造業			
170	鉱物・土石粉碎等処理業			
172	うわ薬製造業			
173	高炉による製鉄業	10	10	(1) コークス製造工程にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、500、320とする。 (2) ステンレス硝酸酸洗工程を有するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、55、40とする。
175	フェロアロイ製造業	15	10	
176	高炉によらない製鉄業（前項に掲げるものを除く。）	10	10	
178	製鋼・製鋼圧延業（転炉（単独転炉を含む。）又は電気炉（単独電気炉を含む。）によるものに限る。）	15	10	ステンレス硝酸酸洗工程を有するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、100、40とする。

179	熱間圧延業（182の項及び183の項に掲げるものを除く。）	15	10	ステンレス硝酸酸洗工程を有するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、55、40とする。			
180	冷間圧延業（182の項及び183の項に掲げるものを除く。）	10	10	ステンレス硝酸酸洗工程を有するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、55、40とする。			
181	冷間ロール成型形鋼製造業						
182	鋼管製造業	15	10	ステンレス硝酸酸洗工程を有するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、55、40とする。			
183	伸鉄業	10	10	ステンレス硝酸酸洗工程を有するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、55、40とする。			
184	磨棒鋼製造業	10	10	ステンレス硝酸酸洗工程を有するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、45、40とする。			
185	引抜鋼管製造業	15	10	ステンレス硝酸酸洗工程を有するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、55、40とする。			
186	伸線業						
187	ブリキ製造業	10	10				
188	亜鉛鉄板製造業						
189	めっき鋼管製造業	40	10				
190	めっき鉄鋼線製造業	15	10				
191	表面処理鋼材製造業（187の項から前項までに掲げるものを除く。）	10	10	ステンレス硝酸酸洗工程を有するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、55、40とする。			
192	鍛鋼製造業	10	10				
193	鍛工品製造業	15	10				
194	鑄鋼製造業	10	10				
195	銑鉄鑄物製造業（次項及び197の項に掲げるものを除く。）						
196	鑄鉄管製造業						
197	可鍛鑄鉄製造業						
198	鉄粉製造業						
199	鉄鋼業（173の項から前項までに掲げるものを除く。）				15	10	ステンレス硝酸酸洗工程を有するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、55、40とする。
200	非鉄金属製造業				15	10	

201	電気めっき業	20	10	窒素又はその化合物による表面処理施設を設置するものにあつては、同施設に係る特定排出水の最大の量が400立方メートル以上の場合の窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、50、35とし、同施設に係る特定排出水の最大の量が400立方メートル未満の場合の窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、90、55とする。
202	金属製品製造業（前項に掲げるものを除く。）	40	10	(1) 溶融めっき工程（窒素又はその化合物による表面処理施設を設置するものに限る。）にあつては、窒素含有量の欄(2)の値は、25とする。 (2) アルマイト加工工程（窒素又はその化合物による表面処理施設を設置するものに限る。）にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、55、35とする。
203	一般機械器具製造業	20	10	
204	電子回路製造業	15	10	
205	電子部品・デバイス・電子回路製造業（前項に掲げるものを除く。）、電子機械器具製造業又は情報通信機械器具製造業	20	10	(1) 民生用電気機械器具製造工程（窒素又はその化合物による表面処理施設を設置するものに限る。）にあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、30、20とする。 (2) 半導体素子製造工程にあつては、窒素含有量の欄(2)の値は、15とする。
206	輸送用機械器具製造業	15	10	自動車・同付属品製造工程（窒素又はその化合物による表面処理施設を設置するものに限る。）にあつては、窒素含有量の欄(1)の値は、25とする。
207	精密機械器具製造業	10	10	時計・同部分品製造工程（時計側を除く。）にあつては、窒素含有量の欄(1)の値は、30とする。
208	ガス製造工場	10	10	

209	下水道業	30	20	(1) 標準活性汚泥法その他これと同程度に下水中の窒素を除去できる方法より高度に下水中の窒素を除去できる方法により下水を処理するもの（高濃度の窒素を含有する汚水を多量に受け入れて処理するものを除く。）にあっては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、15、15とする。 (2) 高濃度の窒素を含有する汚水を多量に受け入れて処理するものにおいては、窒素含有量の欄(2)の値は、30とする。
210	空瓶卸売業	20	10	
211	共同調理場（学校給食法（昭和29年法律第160号）第6条に規定する施設をいう。）	15	10	
212	弁当仕出屋又は弁当製造業			
213	飲食店	25	15	
214	宿泊業			
215	リネンサプライ業	10	10	
216	洗濯業（前項に掲げるものを除く。）	15	10	
218	写真業（写真現像・焼付業を含む。）	20	15	
219	自動車整備業	15	10	
220	病院	25	15	
221	し尿浄化槽（建築基準法施行令（昭和25年政令第338号）第32条第1項の表に規定する算定方法により算定した処理対象人員が501人以上のものに限る。）	50	20	(1) 建築基準法施行令第32条第1項の表又は同条第3項第2号に規定する技術上の基準を満たす構造のし尿浄化槽より高度にし尿を処理することができる方法によりし尿を処理するものにおいては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、30、10とする。 (2) し尿のみを処理するものにおいては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、55、20とする。

222	し尿浄化槽（建築基準法施行令第32条第1項の表に規定する算定方法により算定した処理対象人員が201人以上500人以下のものに限る。）	50	20	(1) 建築基準法施行令第32条第1項の表又は同条第3項第2号に規定する技術上の基準を満たす構造のし尿浄化槽より高度にし尿を処理することができる方法によりし尿を処理するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、30、15とする。 (2) し尿のみを処理するものにあつては、窒素含有量の欄の値は、それぞれ同欄の順序に従い、60、20とする。	
223	し尿処理業（し尿浄化槽に係るものを除く。）	20	10		
224	ごみ処理業				
225	廃油処理業	10	10		
226	産業廃棄物処理業（前項に掲げるものを除く。）	45	20		
227	死亡獣畜取扱業	25	15		
228	と畜場				
229	中央卸売市場	20	15		
230	地方卸売市場				
231	試験研究機関（水質汚濁防止法施行規則（昭和46年 ^{総理府} 令第2号） ^{通商産業省} ）第1条の2各号に掲げるものをいう。）	20	10		
232	前各項に分類されないもの	(1) 指定地域内事業場のし尿又は雑排水（221の項及び222の項に係るものを除く。）	60	20	
		(2) 上水道業・工業用水道業（自家用工業用水道業を含む。）	10	10	
		(3) (1)及び(2)に分類されないもの	60	20	